

生い立ち

子どものころ、私のりょうしんは二人とも農家でした。りょうしんは育てたやさいを売っていました。小さいころ、私たちはサリサリストアもありました。りょうしんはハロハロやバーベキューも売りました。小学校のとき、私は教室でおかしを売っていました。

週末になると、友だちといっしょに白黒テレビでアニメを見ました。私たちはアニメのキャラクターをまねして、ロールプレイをしました。犬夜叉、ハンターハンター、ドラゴンボール Z は大好きなアニメでした。スリッパをうでに入れて、キャラクターのように走ったり、よけたり、話したりしました。いつか日本に行って、美しいけしきを見たいと思っていました。時々、山のふもとに行き、くだものをさがしました。時がたって、小学校をそつぎょうしました。そして、みんな別々になりました。私は高校に入りました。

高校3年生のとき、人生はとてもむずかしくなりました。父はとても病気になって、慢性肝臓びょうとリンパしゅの病気と診断されました。父はけんざん療法とほうしゃ線治療を受けました。父のびょうきのために、サリサリストアの仕事もだんだんなくなりました。けれども、父は生きのこることができず、かなしくて亡くなりました。父がいない生活はとても大変でしたが、私は前に進まなければなりませんでした。

私は学校をやめそうになりました。私が勉強をつづけるために、兄は自分の学校をやめて、母と姉を手つだいました。私は早く卒業したいと思っていました。大学に行きたかったですが、お金がなくて、行けませんでした。

高校をそつぎょうしたあと、私は仕事をはじめました。その時、姉と兄は自分の家族を作りました。私は家政婦としてはたらき、その後、パン屋ではたらきました。そして、いところが工場の仕事を紹介してくれました。私は何年も工場で働きました。スタットラインスナック、JBC フード、サンクレストフーズ、ヘブロンフーズ、CDO フーズスフィアなど、大きい会社で働けるとは思いませんでした。メラルコや NGCI と協力する電気アクセサリーの会社でも働きました。本当に感しゃしています。

何年も働きましたが、給料はまだ足りませんでした。私はおいの学校のひようを手つだっていたので、将来やもしものためのお金をためることができませんでした。だから、外国で働くことをかんがえました。

ある日、チャンスが来ました。友だちが日本語学校をすすめてくれて、それがケンジミンでした。私の日本語と日本文化の勉強がはじまりました。外国語を勉強するのは大変ですが、これまでの人生のたいけんが、あきらめない心を教えてくれました。

私は神さまにかんしゃしています。そして、一生けんめい教えてくれた先生たち、最初に仕事をくれた私のいところ、私の力をしんじてくれた友だち、そして心と気持ちをささえてくれた家族、とくに姉にかんしゃします。人生のたたかいは終わりません。でも、どんなことがあっても、私たちは前にすすまなければなりません。